

# 遊休農地等の問題を解決し地域振興に貢献したい

TAIKEI ファーム株式会社（豊田市）

## 事業者概要

- 所在地：豊田市東梅坪町 10 丁目 3 番地 3  
(農園:豊田市御船町東山畑 34-2)
- 代表取締役：大矢 伸明
- 設立年：平成 30 年 2 月
- 雇用者数：常時雇用 5 名、臨時雇用 35 名



## 取組概要

- 【生産（1次）】 イチゴ、メロン、サツマイモ、タマネギ、カキ
- 【加工（2次）】 イチゴジャム・ソース、ドライイチゴ、イチゴ酢、サツマイモチップス、焼き菓子
- 【販売（3次）】 観光農園（イチゴ狩り、サツマイモ・タマネギの収穫体験、直売、カフェ）

## 取組までの経緯

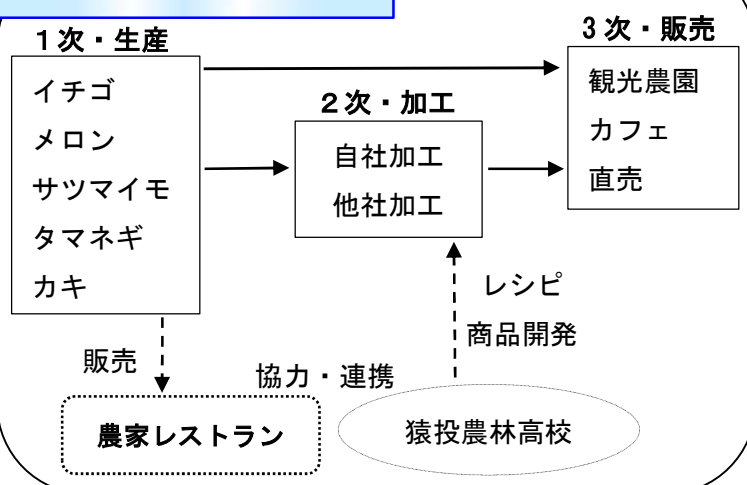
いちごやメロンの廃棄ロス、多様な雇用の創出、遊休農地の活用を行い、観光農園の新しいビジネスモデルになればと考えている。

将来的には、遊休農地等の問題を解決し地域振興に貢献したい。

## 取組の特徴、強み

- ・いちごとメロンで JGAP 認証を取得し、安全安心な提供をしている。
- ・イチゴ狩り園・カフェはバリアフリーで障がい者や子供に優しい設計。多目的トイレの設置。
- ・関連会社との連携により、施設整備等、ハード面での対応を迅速に行うことができる。
- ・廃棄はゼロであり、すべて観光農園、直売、加工で使用している。
- ・地元の農業高校と開発したレシピを使用して加工品を生産している。また、グループ会社のレストランでもイチゴやメロン等を使用している。

## ビジネスモデル・連携図



## 取組の課題

- ・イチゴ狩りの閑散期の集客。
- ・生産量を見越した加工ができない。
- ・販売アイテムの開発と展開。ジャムは差別化を図り、売れる物を作らなければならない。イチゴは加工が難しくメロンは冷凍できないなど、生産物の特性に合わせた商品開発。
- ・販路開拓と新商品の認知度向上。
- ・イチゴに付加価値を付ける。

## 課題解決の方法

- ・まだ設立から期間が短いため生産量の予測が難しく、生産量を見越した加工ができていない。データを取りつつ生産量を安定させる。
- ・商品開発は、無難な味とならないよう、品種の特性を生かす。
- ・販路開拓については、SNS等を常に更新し、魅力ある発信を心がけている。また、閑散期にはイベントを開催し、足を運んでもらえるよう努めている。
- ・関連会社を通じて各方面に事業周知をしている。
- ・ストロベリーパークみふねのブランドイメージを付ける。

## 取組の効果

- 来客数：年間5万人（令和4年7月～令和5年6月）
- 令和4年12月開店～令和5年6月までのカフェ営業の売上高は、全体の20%
- イチゴは糖度に気を付けている。「美味しい」というイメージを付けるためカフェや販売する冷凍イチゴは、完熟したイチゴを使うことにこだわっており、甘いと評価を得ている。

## 活用した支援策

6次産業化サポート事業、制度融資、事業再構築補助金

## 今後の展望

5年以内の目標は、商品開発を進めて加工商品数を増やすことと閑散期の来客数を増やすこと。中山間地でいちご苗を生産する事業を進めている。

すでに行っている視察受け入れに加えていちご栽培指導も視野に入れて、他生産者と連携していくことで遊休農地等の問題解決に貢献し、地域振興したい。

## 取組者のコメント

販路等の拡大を考えて農業経営をしていかなければならない。そのために6次産業化の考えは重要となる。収支のみに追われるのではなく、社会貢献や地域活性化の観点も踏まえて農業経営をしていきたい。6次産業化は新たな雇用を生み、耕作放棄地解消にも資する取組であり、今後も続けていきたい。

